エピローグ　絵にも文章にもできない

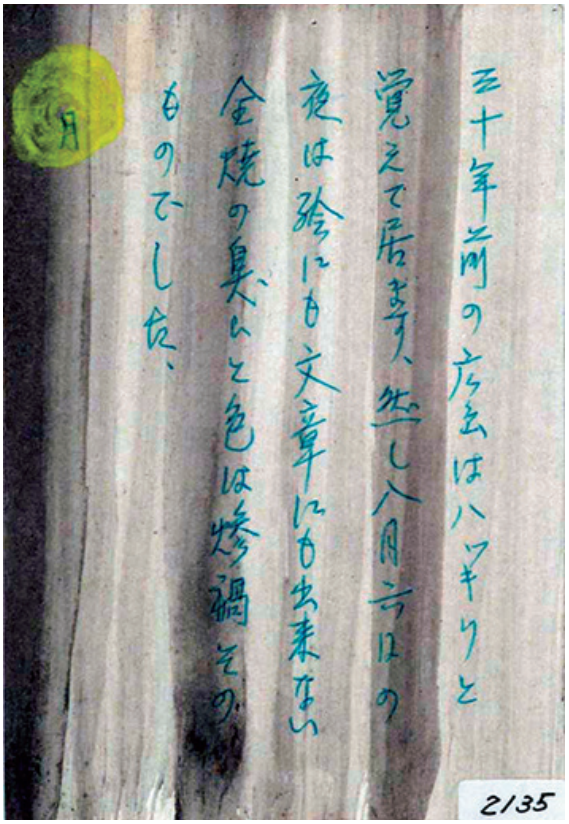
「体験した者にしか分からない」「どんなに描いても描き尽くせるものではない」絵の中に書き添えられた作者の言葉には、このような表現がしばしば見られます。

おそらく、どの作者も同じ思いを抱いたことでしょう。

葛藤の末に描かれた絵であるからこそ、何とかして伝えたいという強い意志が感じられるのかもしれません。

最後に紹介するのは、はがきに描かれた小さな作品です。

8月6日の夜、煙と死臭が立ち昇る空に、いつもと同じ月が輝いています。焦土に立ち、月を見上げた作者の、深い悲しみと虚無感が伝わってきます。



月

❶横山英子　❷22→52　❸8/6　❹－

30年前の広島はハッキリと覚えて居ます。しかし8月6日の夜は絵にも文章にもできない。全焼の臭いと色は惨禍そのものでした。

8Kデータの作成

平成29年(2017年)、広島平和記念資料館はNHKと共同で「市民が描いた原爆の絵」4,200枚について、8Kカメラで撮影した超高精細画像データを作成しました。これにより、筆致や色使い、紙の質感まで鮮やかに再現することが可能となりました。

撮影作業